

2、学校制度制定以前の磐田の様子

明治時代に学校制度が制定されるより前の時代にも、寺子屋・私塾・郷学校・藩学校などの学校がありました。これらの学校があったことが基礎になって、明治時代に学校制度を順調に始めることができたといわれています。それらはどのような学校で、磐田市内にはどんな学校があったのでしょうか。

【寺小屋】

室町時代からあり、寺で教え、生徒を寺子とといったため寺子屋とよばれていました。江戸時代中ごろから盛んになり、町人や農民の子どもも通いました。6～13歳の子に習字・読み書き・そろばん（計算）などを教えました。

磐田市内にあった寺子屋について調べるには

- ・『解説 旧見付学校』 p. 47～49（全館）
- ・『磐田市教育のあけぼの』 p. 7～17（全館）
- ・『磐田市史 通史編下巻 近現代』 p. 150～156（全館）
- ・『豊田町誌 通史編』 p. 670～673（全館）
- ・『ふるさと豊田 改訂版』 p. 273～274（全館）
- ・『竜洋町史 通史編』 p. 366～367 p. 379（全館）
- ・『福田町史 通史編』 p. 487～488（全館）
- ・『福田町の歴史』 p. 289（全館）
- ・『豊岡村史 通史編』 p. 602～603（全館）
- ・『豊岡物語 増刊号』 p. 44～45（全館）
- ・『わたしたちの豊岡村』 p. 63（全館）

【私塾】

江戸時代から明治時代にかけて一般の人がつくった、おもにおとなを対象とした学校です。寺子屋で教えることより難しいことを教えました。磐田市内では、大久保忠尚と熊谷敬三の私塾がおもなものです。

私塾について調べるには

- ・『解説 旧見付学校』 p. 50（全館）
- ・『磐田市教育のあけぼの』 p. 17～23（全館）
- ・『磐田市史 通史編下巻近現代』 p. 156～161（全館）
- ・『わたしたちの磐田』 p. 125～126（全館）
- ・『豊田町誌 通史編』 p. 801～804（全館）

【郷学校】

明治の初め、地域住民の有志によって作られた学校です。磐田市内では、第四十四区郷学所、匂坂郷学校、向笠法雲庵村学校などがありました。第四十四区とは現在の田原地区や御厨地区などを含む地域で、第四十四区郷学校は後に坊中学校になりました。

郷学校について調べるには

- ・『解説 旧見付学校』 p. 51（全館）
- ・『磐田市教育のあけぼの』 p. 30～47（全館）

【藩校】

藩のために役立つ人を育てるために、藩が作った学校を藩校といいます。明治初期には静岡藩だった磐田市内にも、藩立小学校がありました。明治2（1869）年6月に、中泉奉行の前島密が、中泉に仮小学校を開校しました。明治3年7月に静岡藩が藩立小学校設置の法令を出し、仮小学校が藩立小学校になりました。この学校は、明治4年8月に静岡藩が静岡県になったため藩校ではなくなりましたが、明治6年に開校した公立小学中泉学校に受けつがれました。

藩校について調べるには

- ・『解説 旧見付学校』 p. 50（全館）
- ・『磐田市教育のあけぼの』 p. 23～48（全館）